

# 平成29年度 第71回関東高等学校女子バスケットボール大会

東京都高体連女子部 伊佐牧子

会場	船橋市総合体育館	派遣期間	平成29年6月9日（金）～11日（日）
大会名	第71回 関東高等学校女子バスケットボール大会		
参加チーム	東京：東京成徳大学高等学校・明星学苑・八雲学園・国本女子 千葉：昭和学院・千葉経済大学附属・千葉英和・県立茂原 埼玉：埼玉栄・山村学園・ 神奈川：アレセイア湘南・県立元石川 山梨：富士学苑 群馬：桐生市立商業 栃木：白鷗大学足利高等学校 茨城：土浦日本大学高等学校  【Bブロック】 東京：佼成学園女子・都立広尾・文化学園大学杉並・実践学園 千葉：幕張総合高等学校・市立柏・県立一宮商業		
	スケジュール		
6月9日（金）	16時30分	集合・受付	ウイシュトンホテル・ユーカリ
	17時30分	審判会議	ウイシュトンホテル・ユーカリ
	18時00分	審判ミーティング	ウイシュトンホテル・ユーカリ
6月10日（土）	9時30分	第1試合開始	船橋市総合体育館
	18時30分	第6試合終了	船橋市総合体育館
6月11日（日）	9時30分	Bブロック準決勝開始	船橋市総合体育館
	16時30分	終会	船橋市総合体育館 控室
審判ミーティング			
<p>◇石鍋 光智代氏： S級までの道のりについて                      ↳自分が何をしてきたのか、何をしなければいけないのかを考えることが重要。</p> <p>◇小坂井 郁子氏（神奈川）： ガイドラインについて                      ↳判定したものに對して、ルールで説明できるようにしなければいけない。                      メカニックも重要だが、触れ合いがあるかどうかを確認することが一番重要となる。                      OF・DFのシリンダーを超えた不当な手の使い方について                      RSBQについて                      スクリーンプレーについて                      set up positionとclose down positionポジションの意識</p> <p>◇渡邊 整氏（栃木）： 2POのメカニックについて                      ↳正しい判定をするためには、ブラインドからの判定をしないこと、動きながらの判定をしないこと、動いてスペースを見に行くこと、といった様々な要素がある。                      set up positionといった言葉だけが一人歩きしてしまい、動かない人が多くなってしまっている。                      角度と視野を求めて位置を変えることは何も変わっていないため、Always movingをもっと実践するべきである。</p> <p>&lt;TRAIL&gt;                      ↳ペイントエリアでは、積極的な判定が必要。                      cross stepを用いドライブとは逆への動きをすることも必要。                      primary をより強く意識をする。</p> <p>&lt;LEAD&gt;                      ↳ボールがエリア2にある際は、close downをし、set up positionまたはswitch sideをするための準備をしておく。</p>			

担当試合		
日時・会場	対戦	相手審判
0日(土) 14:00~	Bブロック	:坂 美佑紀 氏(茨城)
総合体育館 第4試合	一宮商業(千葉) - 宇都宮中央女子(栃木)	副審:伊佐 牧子
ミーティング内容		
審判主任:河野 仁 氏(山梨)  1試合通して2人の判定に一貫性があり良かった。 ファールが多い試合だったが、接触や手の使い方に過敏になりすぎていた為、OFからの仕掛けや吹かなくてもいいケースがいくつかあった。一つ一つの判定の根拠をさらに明確にすることと、チームや選手の意図を感じ、見極められるとよい。それらを踏まえ、RSBQを意識して取り組む必要がある。		
グループディスカッション対象試合		
日時・会場	対戦	相手審判
1日(日) 9:30~	Bブロック	R:入庭 央裕 氏(神奈川)
船橋市総合体育館 第1試合	佼成学園女子-実践学園	U1:河野 仁 氏(山梨) U2:小柳 幸子(埼玉)
ミーティング内容		
審判主任:久保 裕紀 氏 グループミーティング:佐藤 弘之 氏(群馬)・篠崎 麻衣子 氏(千葉)・伊佐 牧子  試合後半になり、僅差なゲーム展開となった際に突発的に起こる、DF・OFともに悪い手についてディスカッションを行った。外から見てると影響ありと判断するもオンザコートで判定するには薄いということで笛をいれなかったという結論だった。 ただ、メカニクスの部分を加え、誰が一番見えやすいエリア(primary)なのかを意識することにより判定の薄さがなくなったり、set up position ⇔ close down ⇔ switch sideをさらに上手く使うことができる。ショットの際にもアングルを意識することにより、primaryが誰になるのかが明確になり、より良い判定が生まれるといった点をグループにてディスカッションを行った。		
総括		
東京からの派遣審判として、自分の立場を意識しながら今まで培ってきたこと、経験してきたことを全てコートで出し、1つでも多く選手にいいプレーをさせようという気持ちで臨みました。今大会で一番に課題だと感じたのは、判定の薄さを痛感致しました。RSBQを意識して今後の審判活動に取り組んでまいります。 今回、初めてグループディスカッションを行い、コートの外から見る判定や印象とオンザコートでの判定や印象を共有することができ、とても有意義な場となりました。自分自身の審判活動にも活かせ、連盟に戻った際にぜひ共有し取り組みたいと思います。  最後になりますが、関東の審判員の方と3日間共にし、交流を深めることが出来たり、審判を見ることができ、とても刺激になりました。これを今後を活かし、ステップアップしていきたいと思います。今大会にあたり、開催県の三好審判長をはじめ、千葉県の皆様には感謝申し上げます。また、ご指導頂きました関東ブロックの渡辺整審判委員長をはじめ、関東の派遣審判員の皆様、派遣して頂いた東京都の久保委員長はじめ、東京都の審判員の皆様		